

P-2-4

暫間補綴物を最終インプラント上部構造へ 反映させた一症例

A case in which a temporary prosthesis was reflected
in the final implant superstructure.

近畿・北陸支部 井汲 建



1.はじめに（緒言・目的）

口腔インプラント治療における暫間上部構造は、患者個々に求められる審美性や清掃性、咬合を一定期間付与し、口腔内組織や患者様の受容性を確認する上で非常に重要である。暫間上部構造の形態を最終上部構造に反映させる方法として、調整後の暫間上部構造を一時お預かりして最終上部構造を製作する事が一般的である。しかし、製作の過程が複雑となる為、暫間上部構造の咬合面形態と著しく異なる咬合面形態が最終上部構造に付与される症例を心ならずも製作せざる得ないことを経験する。そこで、今回2種類のスキャンニングデータを三次元的に重ね合わせることで、調整済み暫間上部構造の形態情報をコピーする事が可能であることに着目した。本学会では、その一例を報告する。

2.症例

68歳 男性 主訴：歯がグラグラするのを治してほしい、
入れ歯は避けてほしい
患者様とご相談の結果、
上下インプラント治療を選択された。



インプラント埋入後、暫間上部構造製作～最終上部構造までの
デジタルワークフローを記す。

3.デジタルワークフロー

強度が高いPMMAディスクを使用し暫間上部構造製作（CADデータ保存）

口腔内調整済みの暫間上部構造を印象
→石膏模型をラボスキャナーにてスキャンニング

CADソフトにて2種類のSTLデータ重ね合わせ

ジルコニアディスクから最終上部構造を削り出し完成させる



暫間上部構造



暫間上部構造製作時のデータ

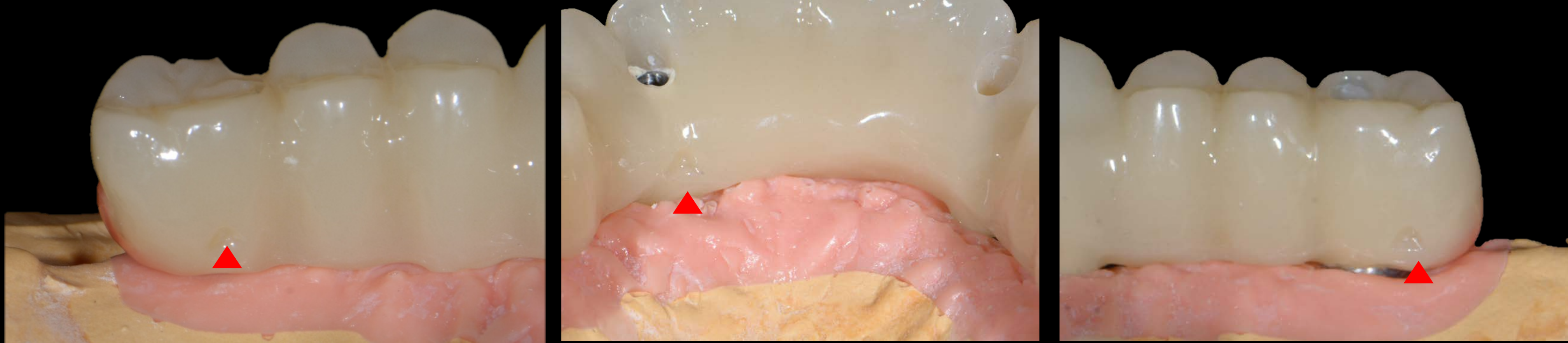


口腔内調整済み暫間上部構造

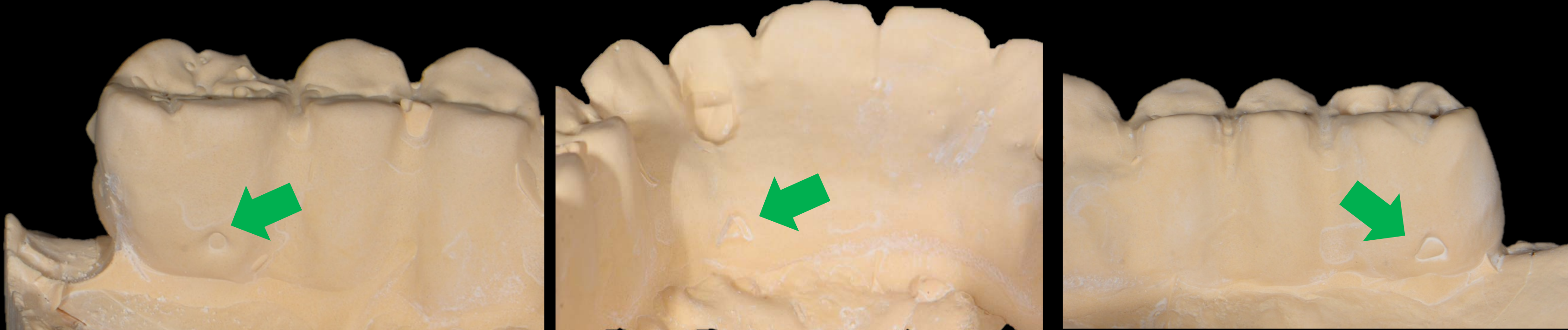


マテリアルはレイヤリングを行
わないフルカントアージルコニ
アを使用した。

4.重ね合わせのポイント

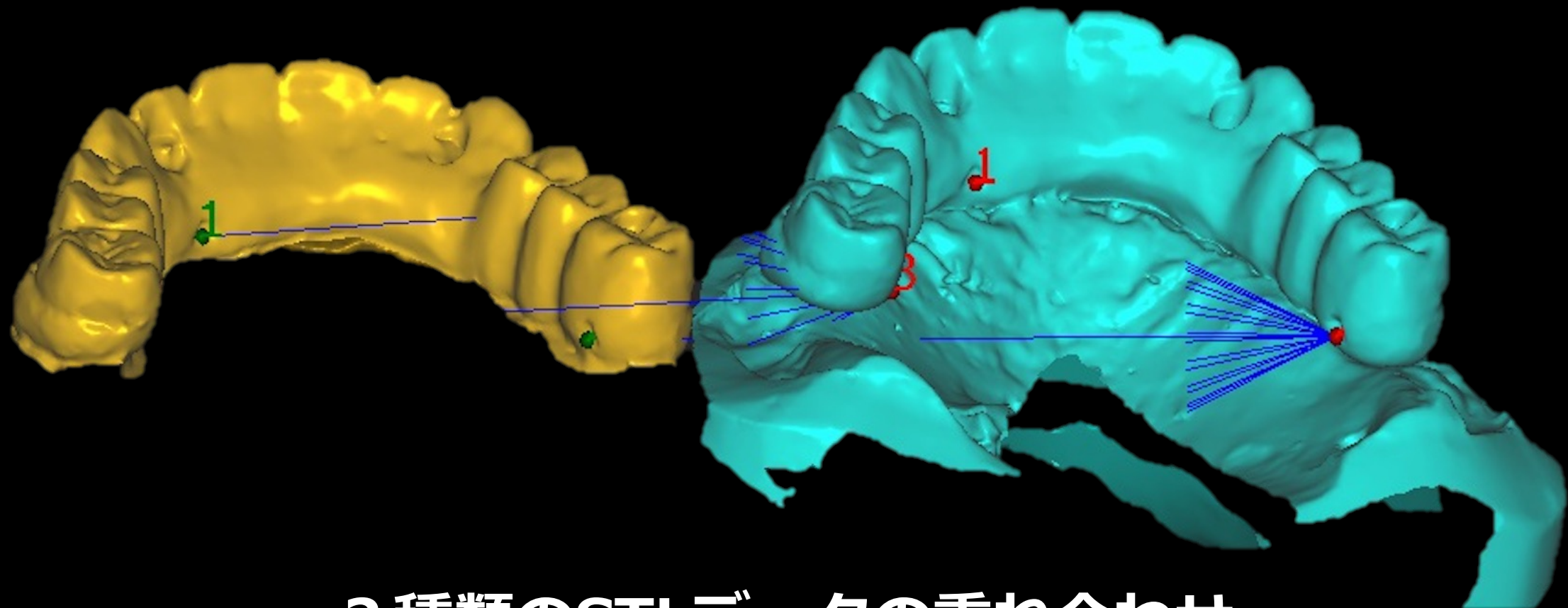


暫間補綴物の
12・16・26部位の舌側面で
咬合に無関係な位置に口腔内で違
和感が少ないよう小さく三角形の
凹面を形成、重ね合わせのマーキ
ングポイントを作った。



調整済みの暫間上部構造を口腔内にて
シリコン印象にて三角形の凹みに気泡
が入らないように印象を行った。

5.最終上部構造SET



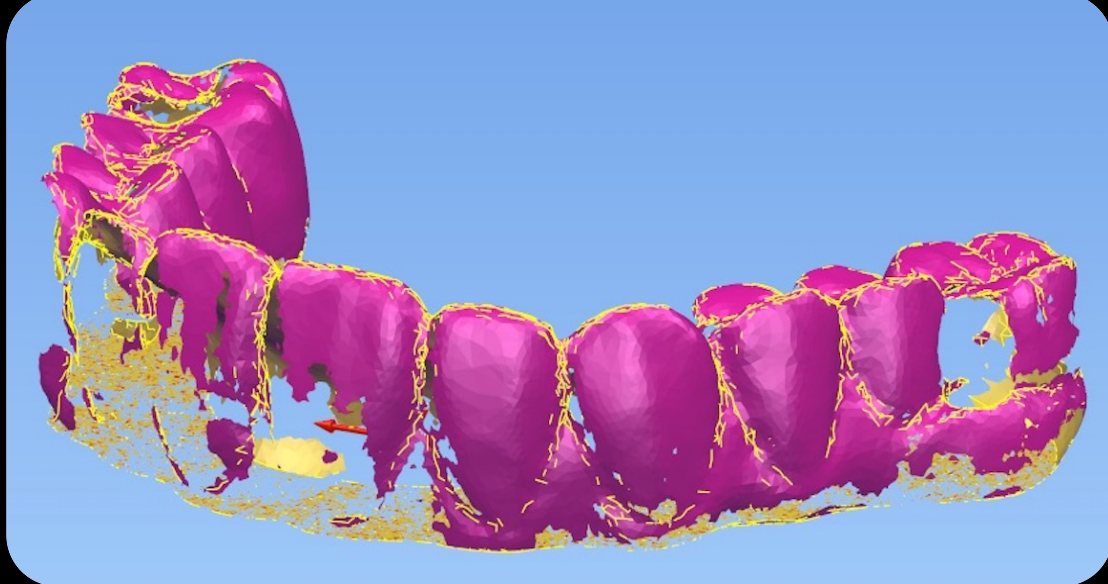
2種類のSTLデータの重ね合わせ



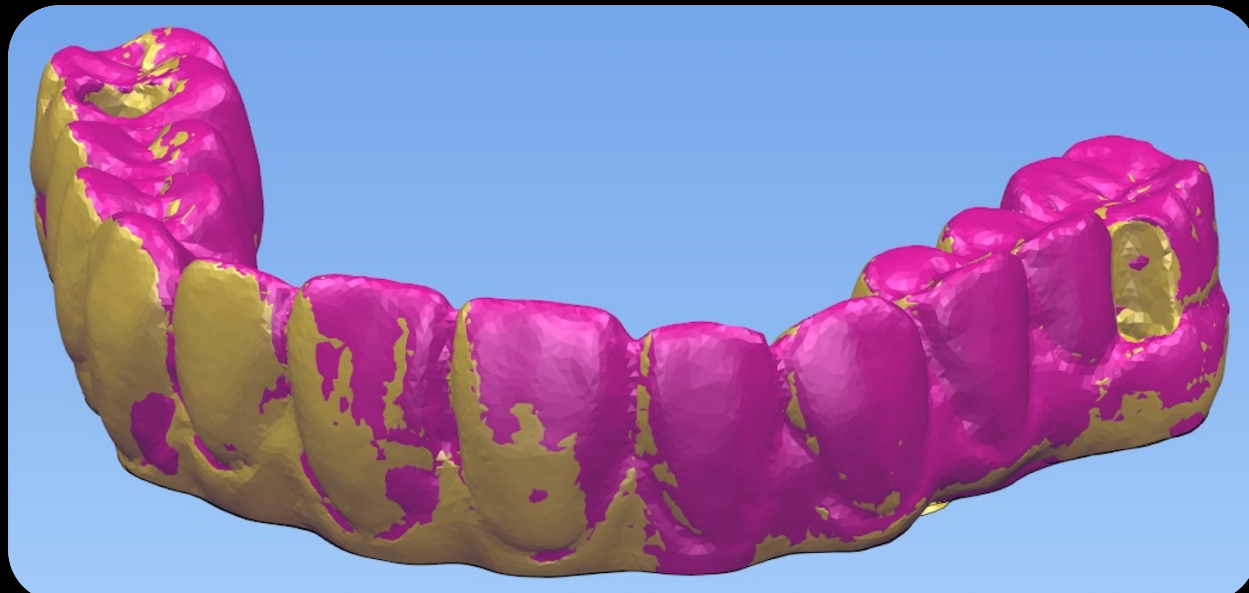
6.マッチングの精度（暫間上部構造と最終上部構造の形態の差の検討）



暫間上部構造が
突出している部分の体積 **91.9mm³**



最終上部構造が
突出している部分の体積 **113.9mm³**



形態の差の体積 **205.8mm³**

$$\text{形態の差の体積比率（\%）} = \frac{\text{形態の差の体積（205.8mm}^3\text{）}}{\text{暫間上部構造の体積（6398.0mm}^3\text{）}} \times 100 = \mathbf{3.1\%}$$

**マッチング率
96.9%**

7. 考察と展望

口腔内で完全に調整された暫間上部構造の形態を最終上部構造へ反映させるデジタル法を患者に初めて応用した。最終上部構造の形態の差の体積比率は3.1%以下であり、チェアーサイドでの調整をほとんど行わずに口腔内に装着可能であった。咬合面形態の再現は満足いく結果だった今後もこの工程を改良し100%に近づける努力を行いたい。

第50回公益社団法人日本口腔インプラント学会記念学術大会 利益相反(COI)開示 2020年9月19日

筆頭発表者氏名： 井汲 建

※利益相反開示は、必ず行ってください。（この書式が必須ではございません）